

令和 2 年度
第 1 回松江市上下水道事業
経営計画推進委員会

議 事 内 容
(概 要)

令和2年度第1回松江市上下水道事業経営計画推進委員会

1. 日時：令和2年8月8日（土） 14：00～16：00

2. 場所：松江市上下水道局 大会議室

3. 出席者

（1）出席委員 水谷文俊委員長、磯部美津子副委員長、宮脇和秀副委員長
安部寿鶴子委員、伊藤京子委員、宇野和男委員、
清水洋子委員、前田幸二委員

（2）欠席委員 玉野井晃委員

（3）事務局 川原良一上下水道局長、大塚享義業務部長、
吉岡秀樹工務部長、中西誠業務部調整官

4. 議 事

（1）委嘱状の交付

（2）委員長・副委員長の選出

（3）議題

1. 第1次松江市上下水道事業経営計画の進行管理

及び上下水道局防災計画について

◇委員会の内容（概要）

議題 第1次松江市上下水道事業経営計画の進行管理及び上下水道局
防災計画についてについて説明

○水谷委員長 丁寧の説明をしていただきまして、ありがとうございました。
それでは、ただいま説明があった内容について、委員の皆様方か
らご質問・ご意見をお受けしたいと思います。どなたからでも結
構ですので、お願いいたします。いかがでしょうか。

……………質問・意見なし……………

みなさん考えておられるとは思いますが、遠慮がちですか
ね。その間に私のほうからいくつか意見させていただきたいと思

います。

まず、松江市の上下水道事業経営計画の進行管理について、簡易アンケートの事業評価が 22 ページに挙がっていて、局長のほうから「3.0 で、去年よりは向上した」という説明がございました。

今後、目標が 3.6 まで上がっていくのですが、とにかく人間は、高いレベルにあれば、そのレベルが前提となり、さらにもっと満足という形になって、際限がなくなってくるのではないかと思います。

例えば目標値に関して、「何点以上は維持する」という、下限を維持するというような目標に変えることも可能なのかどうかを、少しご意見をお聞かせ願えればと思います。とにかく良いレベルに達しているのに、「さらにもっとあったら満足するけどな」ということに多分なると思います。

●川原上下水道局長

大変ありがとうございます。実は一昨年度、最初に計画をつくった段階では、30 年度に 3.5 という目標を立てておりました。しかし、3.5 が 2.94 という実態であったことから下方修正をして、このような目標値になっています。

ただ、委員長がおっしゃいますように、令和 6 年度に 3.6 というのは非常に高い目標であることは我々も承知をいたしております。そこは色々な普及啓発、あるいはご周知というものをやらせていただきながらと思っております。

今回のアンケートを踏まえて思いましたことは、やはり「料金が非常に高い」ということをおっしゃっている方が非常に多いわけです。まず、その部分のご理解をいただくためには、お預かりした料金というもので、防災や安定給水含めて、きちんと資産維持・投資をやっているということをご理解いただいていくことが一番だと思っております。

そういった取り組みは、一昨年に計画をつくるまでは非常に希

薄であって、そこから本格的に取り組んでおり、委員長さんがおっしゃられたことを受け止めながら、そこは直ちにということではなくて、若干啓発をさせていただいてからのアンケートの状況を踏まえながら考えたいと思います。

○宇野委員

最初に、今、委員長がおっしゃられましたが、あまりアンケートの数値に固執されなくても良いのかなというのは私の意見です。市全体像の意見を集約、把握できれば良いのですが、アンケート調査自体が市民全体から抽出し、その中で 5,000 人は多いようで、また回収率は確かに高いですが、去年の方の意見と今年の方の意見が違うというのはアンケート調査の大前提であるわけです。

同じ方がずっと経年的に今の上下水道局の運営方法を見ていて回答されるのであれば、数値にこだわっても良いのではないかと思います。

ですから、委員長のおっしゃったことに賛成なのですが、あまり数値 1 つ、それも小数点 2 桁まで出されることは、私が数値解析をやっているときにはあまり重要視をしておりませんでした。

今のは感想でしたが、最初から質問だけしていきます。1 ページですが、管路の更新耐震化のダウンサイジングという意味合いが、パッと読むと、普通の方は恐らく管路の縮小化とかダウンサイジングととるのですが、まだほかにあるのかどうか。

それから、4 ページですが、経済に疎い私からですが、真ん中辺りに、市民 1 人当たりの企業債残高が、他の類似団体と比較しまして、本局は健全団体であると理解して良いのではないかと思います。数値は半分ぐらいでしたか。

それから、これはどう読み取ったら良いかということですが、収益の確保の中で、滞納の整理ということで、7 ページは水道事業ですが、単位として 1,000 円単位で金額が上がっています。

これは年度ごとに計画値の金額が上がっているのですが、その算出というのは、件数から予想されて挙げておられるのでしょうか。

例えば、令和元年度で見込み値の数値は 200 万円近く上がっているのですが、その翌年も 200 万円あるというのは、また滞納者が出るだろうという予想なののでしょうか。

それから、職員の人材育成ということで、色々計画があって、12 ページのハです。資格取得の支援という項目があり、奨励されるのは当然だと思うのですが、支援ということは何かインセンティブが与えられているのでしょうか。

また、保有資格名と人数ぐらひは参考の資料の表にあるとありがたいなと思っておりました。例えば、技術士が何人おられるのかとかあればありがたいなと思いました。

それから、アンケートで「料金に不満を持っている」、それから、自由意見でも「料金が高い」等が突出しているわけです。

当然、安いほうが市民感覚で良いというのは当たり前です。で、建設事業とか、ただ単に水道を使っているという観点からではなくて、「適切な料金ですよ」ということを情報提供していく努力を積み重ねられれば良いかなと思います。

最後に、防災計画の中で、熊本の例にもありましたが、確かに水が生命に一番関係するのですが、あと、出ていくほう、排出のほうの下水道ですけれども、例えば簡易トイレが用意してあっても、男女の区別がないトイレが用意してあって、特に弱者の中での女性が、非常に心痛であったということがありました。

先ほどのご説明の中で、下水道管路のレベル、上のほうは大丈夫で、どこか下が破損しても、下のマンホールの低いところで溢水してしまうということで、本当にそうなるのかという疑問があります。

このデータがもし、GIS で把握されていることがありましたら、地盤高とマンホールの高さと、管路の高さまでは恐らく無理

かなと思いますが、私の近くでも、黒田町辺りは大分地盤沈下があって、「この先、大丈夫かな」という不安があるところもありますので、簡単でよろしいですのでお願いいたします。

●川原上下水道局長

まず、経営計画の進行管理の 1 ページの工法見直し、あるいはダウンサイジングでございます。工法見直しについては、いわゆる不断水工法で断水しない形で行うということになると、そのための装置や工事の費用等が割高になります。

したがって、地元の皆様に断水というものをきちんとご説明して、ご理解をいただいて、その間ご協力をいただきながら工事をするというようなやり方。あるいは、工法の中で、費用がかからないようにやらせていただく。

その中の一環として、ダウンサイジングについては、これも基本的には地元の皆様のご理解が前提となりますが、従来の口径よりも小さい口径にしていく形をお願いをして、ご理解いただく。

その一方で、この計画の中にも出ていますが、いわゆるループ管路というものも 1 つ構想しながら進めているわけでございます。

色々な水源の水が交差をする中でループ状に管路をつくって、そこでバックアップも図ると同時に、そのループの中の細かい支線管路については、口径を小さくしていくということも可能になるわけで、これは供給の問題になります。

したがって、そういうことも含めながら、水の融通というものを含めて工法の見直し、ダウンサイジングをやっていくということでございます。

次に、企業債残高が少ないということですが、平成 30 年にこの計画を作るまでの間は、建設改良費をあまり使わずにきたということがあって、その間、企業債償還には逆に力を入れてきたということで、企業債が他の団体と比べ、その時点でもかなり残高が少なかった。

その後も私どもは市民1人あたりの残高というものを管理指標にして、企業債残高、上下水道ともに管理をして進めておりますので、こういう状況になっているというようにご理解をいただきたいと思っています。

それから、7ページの滞納整理の目標値でございます。令和元年度が平成30年度に比べて見込み値・実績で落ちているところでございます。これはどういうことかという、実は令和元年度の対象件数そのものが、少し落ちたということがあります。

それから、もう1つは、30年度からこの滞納整理というものを一生懸命やろうということで計画をつくったわけですが、正直言って、令和元年度は若干取り組みが弱かったと思っており、そこは我々も反省をしています。

ただ、滞納整理は民間の事業者様にかねてより委託をしていて、民間事業者と職員と一緒に滞納整理をやっていくことで、委託した業務のノウハウも維持をしていくという両方の立場でやっているの、少し数字的にボンと上がったというお話と思います。令和元年度はそのような事情がありますので、ご理解を賜りたいと思います。

それから、人材育成で、12ページのハの資格取得の支援については、当然ことながら、業務の一環として、可能な場合の時間内の対応、また、費用も公費で見たいと今考えていますが、まだ具体的などころまでは定めておりません。

それから、資格の保有状況に関し、後ほど分かれば工務部長が答えますが、少しまだ全体詳細というものをきちんと整理できておりません。

したがって、12ページのヘにあります、人材育成の状況が見える化というか、目標設定をしてやらないとなかなか分かりにくいと考えています。

そういう意味では、委員が言われるように、資格取得の状況は、やはりそれが増えていくように進めていくべきだろうし、そのよ

うな目標を持ちたいと思っています。

それから、23 ページのアンケートの関係は、先ほど頂戴をした部分で、水谷委員長からのご質問もありましたので、そのような形で対応してきたいと思っております。

それから、最後に防災計画の関係で、特に下水道の簡易トイレのお話をいただいたところでございます。

この概要版や本編にはそこまでの記述はいたしておりません。そう申しますのは、これも縦割りだとお叱りをいただくかもしれませんが、上下水道の施設を管理し、これを維持するというのが上下水道局の役割です。いわゆる避難所での簡易トイレの対応とか、校庭を使った簡易トイレの設置とか、実際に平成 18 年の水害のときにもそのような対応をしたわけですが、これは市の環境保全部が対応担当となります。

ただ、我々も今の下水道にダイレクトに流されるマンホールトイレもあるので、そこはそこで色々なことでの対応・検討を図る必要があるだろうし、そのように現在も考えているところです。

それから、お示ししています色々な図面等の問題はどうかというお話があつて、これは 3 ページのところに載せている 3 つの図面とか、メッシュが切つてある図ですが、これは、実は島根県ないし島根県のほうで地域防災計画を立てられるにあたり、担当された事業者様等とよく相談されて、その内容も伺いながらこれを使わせていただいているということです。

根拠なり、あるいはそれぞれの精度・確度については、私どももその限りで信頼して使わせていただいているものです。

それから、先ほどのお話で、マンホールの一番低部から少しクラックが入って云々というお話がありましたが、これは私の説明が悪くて申し訳ございません。

いわゆるたるみとか、ぐにやつと曲がるとか、あるいは多少のクラックが入って、少しそこが染み出すとか、これは管渠の話でございします。それは流下能力を損なわないという意味での管渠の

被害というものを考えております。

いわゆる排水処理施設、あるいはマンホールポンプは別の考え方で、施設については、例えば移送ポンプでの対応等々も含め、あるいはマンホールポンプが止まったことによるマンホールからの溢水等については、これはバキューム対応等で対応している。これは基本だと思っています。

資格保有者の状況が分かれば答えさせます。

●吉岡工務部長

資格保有者ですが、調査はすでに終わっております。本局の職員が、例えば技術士、それから測量士や土木の施工管理士など、色々資格は持っていますが、実際に業務に使う資格、下水道なら下水道に関する管渠の資格とか、施設管理の資格とかはまた別にあります。

局として職員に持ってほしい資格と、それから職員が取りたい資格がなかなか合わないところがあって、今、局が資格取得を求めているのは、業務に関するものをなるべく職員に取ってもらいたいというところで、支援をしていきたいという考えを持っております。

それに併せて自己研鑽として、「僕は技術士を取りたいんだ」、「上下水道部門の技術士になりたいんです」という向上心を持った職員もたくさんいますので、それはそれで自己研鑽として協力・支援をしていくと考えております。

○伊藤委員

失礼します。伊藤です。先ほど宇野委員からもありましたので、少し重複するところもあると思いますが、まず、新規の重点目標というところの知識技術の継承と人材育成ということで、今、計画骨子を説明いただきました。

なかなか今年はコロナということで、色々なことのスタートが遅れていますが、令和2年で、イからへのうち何か具体的に1つぐらいスタートがもうできているのかどうかということがまず

1 点。

それから、全市アンケートについて、色々と分析されていますが、この回答をしてくださった方が 60 代 24.4%、70 歳以上が 38.9%ということは、みなさん第一線から退かれて年金生活の方かなというように思います。

1 人世帯が 24.7%、2 人世帯が 29.6%ということは、そういう数字から見ると、料金が低いというのは、安いに越したことはないのですが、そういった収入のことも考えてこういう数字が出てきたのかなと思いました。

それから、先日の『せせらぎ』ですけれども、4 月からスマートフォンでの決済がスタートしています。若い方たちに「口座振替をお願いします」ということで、今までも大学ですとか、色々なところに行かれて広報していらっしゃいますが、こういうので滞納が少なくなるのかなという気がしています。

今、色々な方がスマートフォンで色々なことができるようになったので、こういうのをどんどん導入されて、これから大きくまた変わっていくのではないかと思います。

それから情報発信ということで、上下水道ニュースというのが 31.8%、ホームページが 28.7%と出ておりまして、複数回答もありますが、かなりの方たちが色々なものに興味を持って上下水道局のことを見ていらっしゃる。

それから、この『せせらぎ』ですとか。それから、知りたい情報のところで経営状況に関するもの。ただ「料金が低い」ということはまずおっしゃいましたが、やはり松江市の水道のこと、安心安全なお水を飲ませていただくということで、色々なことを知りたいとお答えいただいているところもたくさんございます。

これからもこういった広報に力を入れていただいて、市民のみなさんの理解を深めていただきたいなと感じて読ませていただきました。以上です。

●川原上下水道局長

大変ありがとうございます。人材育成の関係で、今、何か具体でということではありますが、これについては、今、具体でこういう成果でこうだというものではございません。

あくまでもお示ししている骨子に基づいて、目途としては今年度、少し来年度にかかるかもしれませんが、こういうものについて、私は逆に短時間の間につくっていくものかという別のものの考え方もあるのかなとは思っております。

とりあえず今、私どもの技術系の職員の意向調査等は担当のところでやっているという状況です。

それからもう1つは、上下水道局だけではなくて、松江市の技術系の職場も広いものがありまして、そういったところとジョブローテーション、色々な経験をさせないと、上下水道局だけにいたのでは、やはり人間は伸びませんので、そこも含めて検討していく必要があるだろうと思っています。

それから、23 ページの全市アンケートのところで、大変ありがたいお言葉をいただいてありがとうございました。

最初におっしゃいました、回答された方の年代とか世帯の構成でございますが、属性としてこういった現状でございます。ただ、現在松江市の65歳以上の高齢化率は確か30%ぐらいだと思いますので、そうそう大きく天と地ほどかけ離れてはいないのかなと思っています。

これは個人宛のアンケートではなく、世帯宛のアンケートですので、そこでアンケートが家に来てお書きになった方々がこういった属性であるということもまたあるので、そこも含めて私どもも考えていくべきかなと考えています。

それから、年金生活の方だと、なかなか水道料金が高いというイメージではないかということですが、確かに回答の属性からはそういう部分が一部読み取れると思います。

ただ、冒頭申し上げましたように、やはり全国一高い松江市の水道料金ということを、かつて非常に喧伝された時代があって、

実際に全国の県庁所在地の中では、はっきり言うと今も高いわけです。

ただ、それに対して「どうなんだ」という話になるので、それはやはり私どもとしても色々なご説明をさせていただきながら対応していくことだと思いますし、やはり十数年に1回は料金値上げというものは、私は避けて通れない問題だろうと考えます。

ただ、大事なことは、その間お預かりした料金を、どういう形で使わせていただいて、市民のみなさんにお応えしていくのかということが、きちんと説明ができないといけないと思っているわけですし、そのご理解を得ていくのが一番重要だと思っています。

それから、色々な広報の媒体についても、私どももこのたびのアンケートで、例えば知っている情報発信で上下水道瓦版『せせらぎ』と申しますのは、これは検針時にすべてのご家庭に入れさせていただいています。

ところが、これをご存知の方が 8.6%ということは、いたって少ないということになるので、したがって、以前にもお話をしていますが、例えば市営バスのデジタルサイネージで動画で宣伝していますので、色々な媒体を工夫したいと思います。

それから、24 ページのところで、料金使用料の電子決済化、あるいは給排水申込のウェブ化ということも色々な関係の皆様のお力添えをいただきながら、今年度から実施いたしております。少し効果の検証等に時間もかかると思いますが、伊藤委員さんがおっしゃった部分を踏まえながら対応させていただきたいと思っています。

○宮脇委員

みなさんおっしゃったので、特別上乘せするような質問はないのですけれども、防災が結構細くなさっていますよね。ただ、全体を見たときに、今回のコロナというのは、今までのリーマンショックとか、サブプライムとか、金融とか、一部だけが影響を

受けている。今回は国の大中小、あるいは企業の大中小、男女、宗教全く関係なく、全世界がバサッと投網にかけたような状況ですから、景色が変わってしまうのです。

なかなかまだピンときていないところがあるのですけれども、ちょうどペストのときは、親が死に、自分の妹が死に、神に祈っても何の意味がない。「神はどこにいるんだ」と、「教会が何だ」と。そして国家権力なりが生まれて、宗教改革が生まれるわけですよ。

やはり第一次大戦のあともそうです。男は戦場で働いて、その銃後の力は何かということ力は女性ですよ。そして、終わったあとに女性の参政権とか社会進出が始まる。それ以上に変わってくるのです。

ですから、色々な企業も、行政も、ビフォアコロナの延長線で計画をそのまま引っ張って果たしていいのだろうか。すごく変わってくるのです。ですから、じっと嵐が過ぎるのを待って、立ち上がってみたら道路も何もなくて、景色が変わるし、どこに行ったか分からないというような時代がくるのでしょけれども、基本的にはこれで良いと思うのですが、やはり色々まだ深いものがありますよね。

例えば需要が本当にどうなるのか。水の商売というのは、今、どんどん増えているのです。アマゾンで一番頼んでいるのは水だとか、水道水が飲めるのに、需要そのものがどのようになっていくのかとか、人口は今まで通り増えないですよ。色々なものがじわじわ効いてくる。

あと、90年以上経つ配管を交換だったり、前回の試算で245億円をどのようにするのか。簡易水道の吸収で110万のうち55万は政府がもって、残りはどのように処理をするのかです。

次の世代に、苦しい世代に負担がいくわけですから、それはきちんと説明責任をされても、ただ「水道が高い」ではなくて、やはり値上げをせざるを得ないし、それは水という一番の生活イン

フラを提供するためにこういうことをやりますよというものも、この際もっとお出しになって。

だいぶ市の水道局さんの色々なアカウンタビリティといいましか、広報とか PR とか、色々なところで雑誌に出たり、良くなっているのです。もっと「実際にファイナンシャル的に厳しいんだ」と言わないと、全員言うのです。「松江は水道が高いから」と。

今、電気料金は下がり始めました、自由化で。水の自由化は、僕は反対なのですが、これはあまり安易に民間に任せるべきではないと思います。

そうすると、「なぜ水道料金だけ上がらないんだろう」と。「電気料金もどんどん下がるじゃないか」とか。

ですから、これを機に、大変な時代がくるのは分かるのですが、きちんと説明をしたほうがよろしいのではないかと。それ以外の色々な施策に関しては、別に私は何か言う必要はないのですけれども、やはり「時代が変わるんだ」という印象はお持ちになったほうが良いと思います。以上です。

●川原上下水道局長

なかなか大きな角度、高い視点からのご意見でございまして、私どもなかなかお答えが難しいわけですが、23 ページの全市アンケートの結果というところをご覧くださいますと、文章に表させていただいております。

この経営計画でございますが、30 年度に策定をいたしましたので、5 年経った令和 4 年度に中間的な見直しを行います。

それに向け、3 年度に同様の 5,000 人のアンケート、今回、コロナは想定していないアンケートの内容になっていましたが、ただ、経年変化を踏まえるためには、今回 5,000 人の部分でやったものと同様なものも取り込みながら、いわゆるコロナ時代の水需要、あるいは生活様式の変化をきちんと捉えて、4 年度の中間見直しに可能な部分を入れていく必要があると思っております。

今のところ、水の需要で申し上げますと、家庭で使われる水需要については、これはそう落ち込んでいません。

一方で、やはり営業用の需要は一定落ちてきていることが事実でございます。ただ、新しいコロナの時代の中でのサプライチェーンの問題とか、あるいは色々なものをつくられるにあたっての、従来外国であったものが日本国内へ移していられるとか、色々な問題があって、全体の水需要というものがどうなっていくのかということは、なかなか私どものような事業所では難しいところもありますが、色々な要素を含めて考えていく必要があるだろうと思っています。

今、市営バスのデジタルサイネージに、手洗いをとにかく励行しましょうと、子どもの映像も含めて、この間から流しております。同時に風呂にも入ってもらうようなことを、これから1つの運動としてやっていくことは、あるいは受け入れていただきやすいのかなという気持ちもいたしています。

それから、お話がございました水に関わる水産業・水事業ですが、これは少し業務委託のところで申し挙げた部分とも若干関わっておりますが、やはり外資系、あるいは国内の水メジャーといわれているところの動きというものも非常にこの間活発化しています。

このコロナの問題を受けながら、ますます海外については、むしろ日本のいわゆる公衆衛生、その端緒が水道で、その中心が水道だということもいえるわけでございますので、そういったところがあるだろうと私どもも思っております。

かねてなかなかこれは厚生労働省や日本水道協会の基本的な方針等は若干異なりますが、やはり民営化とか、PFIとか、権限を与えるような方式の委託というものは取るべきではないと思っておりますので、その基本はきちんと違えず対応してまいりたいと思っております。

とはいうものの、一方では、民間の皆様と一緒に頑張って委託と

いうものも積極的に活用しながら、そのインセンティブも働くようなことをやはり考えていく必要があるだろうと思っているところです。

それから、根本的な問題として、将来的にどうかというお話もありました。

これは一昨年の水道法の改正の動向もありますが、これを踏まえながら、やはりご説明いたしました水道事業・下水道事業の広域化、あるいは基盤の強化を進めていく必要があると思います。

とは言っても、これはなかなか難しい話であって、そこは正直言いますと、やはり行政全体としてのコンパクトシティというものをどういう形で構想し実現をしていくのか、なかなかそれは合併経緯もあって難しければ、拠点連携型の構造というものをどういう形にするのかというところに関わっている話だと思います。

私どもも上下水道の事業者としてそこに参画しながら、この松江市なり、あるいは島根県なりの今後の姿というものをどうしていくのかということと一緒に考えてまいりたいと思っています。

そういった将来のこともありますが、現状の中での料金の問題や、あるいは事業に対する乗り換えのアカウントビリティについては、今日まで以上に取り組んでまいりたいと思っています。

○宮脇委員

確か首都圏は在宅勤務が 38%いきました。ですから、普通は誰もいない独身用のアパートとかが動くので、すごい電力とか水道需要が増えたいです。

島根県は基本的に持ち家があるので、確か在宅率が 2%ぐらいです。ですから、在宅勤務での水の需要とかメリットはあまりないかもしれません。いずれにしてもどんどん上がっていくのでしょうけれども。

○安部委員

すいません。2 点ほどお礼とお願いなのですが、1 点目

は、今お話がございましたコロナの関係で、水道料金を家庭以外のところについては、6月から9月までの納付の4ヵ月間を減免されたという、非常に大きな決断をされたのではないかと思います。

金額的にはわずかなところもあれば、大きなところもあると思います。松江市内でもかなりの数に上るのではないかと考えております。大変そのようにして市民に寄り添ったお客様サービスの一環ではないかと思います。

このような取り組みをされたこと、いわゆる売上の減少とか何も関係なく、一般家庭以外の方はすべて対象になるという非常に大きな取り組みだったのではないかと思います。大変我々市民としてもありがたく思っております。

もう1点は、先ほどの防災関係でございますが、色々な被災状況の把握ということで、近傍の居住職員の方々ができるだけ近場のところの確認をされていくというようなお話がありました。

実は道の駅でも防災、色々な災害があったときに、道路の状況をそれぞれの職員が近場で調べるということがありますが、やはり危険配慮ということもございます。職員の安全面をくれぐれも考えて取り組んでいただけたらということをお願いしたいと思います。以上、2点でございます。

●川原上下水道局長

最初、お褒めをいただきましてありがとうございます。ちなみに宍道町は水道事業者が斐川宍道水道企業団になっていますので、こちらのほうは同額を下水道料金から対応させていただきました。全市的に7,000件の皆様に対して水道の基本料金の減免の取り扱いをさせていただいたところです。

それから、これは余談ですが、旅館・ホテル様で、かけ流しの温泉で、お客さんが来られなくてもずっと流しておられるということがありました。

これは基本料金ではなくて、休館をなさっていた期間の使用さ

れて流された排水の水量、これに相応する料金については、休館をされていた期間について、全額減免の扱いをさせていただいたところです。

ただ、今後のコロナの動向も、また第2波、場合によっては第3波、冬場になりますので、先が分かりませんので、その都度私どもの財政の状況なり、全市的なご理解がいただけるということを前提に、いわゆる減免しない方も含めて検討して、対応していく必要があれば対応したいと思っております。

それから、防災のお話で、職員が参集をしていくということでございます。松江市の地域防災計画による被災の想定の中で、いわゆる家屋の全壊半壊の戸数というものもございまして、これがかなりの戸数が実は全壊半壊の被害を受けるわけでございます。

そちらのほうは、もう一方の防災計画本編（案）の2ページをご覧くださいと思います。

2ページのところで、亡くなられる方が200数十名、負傷者が1,800、全壊が7,000、半壊が1万9,000、大変な被害があるわけで、したがって、参集する職員の人数というものも、これは大変不謹慎な言い方になりますけれども、安全率、いわゆる余裕率を見ていて、職員も7割が参集するだろう。残りの3割は被災するだろうという想定で数量的には出させていただいています。

同時に、計画の中には書いてございませんけれども、今、安部委員がおっしゃいましたように、そこはむしろどういう形で出てこない職員も含めて連絡を取るのかということがあります。

携帯でなかなか通じないという実態もありますけれども、むしろ被災された職員の対応というのは、この計画以外のところでよく検討してまいりたいと思っています。

○磯部委員

表の中で、色々な表があるのですが、例えば7ページ以降の表で、当初、そして令和2年度変更というように変更という言葉が付いています。これはPDCAサイクルを使用して、そこで当初

と変更しましたというような意味合いなのでしょうか。

もう1つは、アンケート調査のことなのですが、構成は多分人口動態に合わせて取られたのかなというのがこの%等を見て思います。

ただ、私が料金に関わるようなことに参加させていただいているので、この「値段が高い」というのを見たときに本当にどつきりしまして、「あ、やっぱり」というように思いました。委員会でもかなり揉めたところもありましたので、そうかなというように思いました。

それは私自身、以前、2010年ぐらいと思いますが、マンホールをつくったときに、松江独自の模様のものをつくられて、それが高いということでワイドショーなどで取り上げられて随分言われ続け、「そのお金があるんだったら、もっと料金を安くするべきではないか」みたいな話がありました。

今では、観光都市としてそれが当たり前で、どこの地域に行ってもそのようになっているので、それは収まっていますが、人の頭の中にはそういうのがあるのかなと。

それから、少しでも家庭の経費を削減したいと思われるのはみなさんの思うところです。

そのために節電式のもの、洗濯機でも購入されて、本当にわずかなものの節電などで、少しでも経費を抑えようとしているところに、「水道料金はそんなに変わらなかった」ということが、1つ思いの中に、それとマンホールがくつついた形であるのかなと。

そうであれば、もっともっとアピールしてほしいなという意見とか、「お水がおいしい」というのは住んでいて言われるのですが、ただ、学生などに聞いていると、「お水代が高いので、お風呂は3人ぐらいで回り持ちで入っているんだ」というような話も聞いたりします。

「そんなことを考えるんだ」みたいな感じで思ったり、それから光熱費全部が一体化している人のところに行って入らせても

らうというような形で、それも少ない量で何とかしようと思っ
ているのかなというようには思います。

この際、その辺りで基本の水量が多分 10 リットルにいかない
ような 1 人暮らしの人たちが多いのではないかという気もする
ので、そういうものとか逡増制、そういったところをもう一度検
討し直してみる必要もあるのではないのでしょうか。

「こうしたけれども、このおいしさの水にするためには、この
料金は適正である」というような形のものが出てくれば、また考
え方も変わってくるのではないかなというようにも思います。

料金の話がパーッと印刷されてくると、多分そこに丸を付ける
というようなことになってしまったのかなというように思っ
ているので、その辺りをもう一度検討してみただければ嬉しい
なというように思います。以上です。

●川原上下水道局長

磯部委員にはかねてより料金審議をいただいてお世話になり
まして、近いところでも昨年の消費税の関係のときにも大変お世
話になりました。ありがとうございます。大変ご心配をいた
だきまして申し訳なく思っておりますし、若干私の説明も足らな
かったかなと思っております。

24 ページにある小さい表なのですが、この表が今の現状でご
ざいまして、高いということの言わば刷り込みのようなものがず
っと、これは大変不遜な言い方になりますが、かなりその効果と
いうのがあるのではないかと思っております。

事実、県庁所在地的な比較はもとより、島根県内でもダントツ
に高かった時代があるわけです。そういう中で、前宮岡市長の時
代に 2 回水道料金を引き下げ、今の松浦になりましてからも 1 回
引き下げを行っています。

この 20 数年間で 3 回にわたって料金の値下げをして今日に至
っている経過とか、あるいは数字の動きというものが、おっしや
いますようになかなか市民のみなさんにダイレクトには理解・反

映されていない面もあろうかと思っています。

そういう意味で、先ほどみなさんからの色々なお話もございましたけれども、やはりアカウンタビリティというか、説明をきちんとやっていくということは非常に大事なことで、そこが弱いということも事実だと思います。

それから、何年か前までは、あまり建設投資というものの自体に取り組んでいなかった時代が一定期間ありました。

その部分のご理解・ご認識というものが、なかなか私どもも市民のみなさんに対しての説明のやり方そのものもまだ弱いというか、なかなか説明しきれていないのかなというところを合わせて反省すべきだと思っております。

非常に巨額な経費を費やして、毎年度建設改良投資をやっているわけですから、そこのご理解・ご説明というものが不足しているのだらうなと思います。

それから、今後の料金の体系そのものはどうかというお話もあったわけですが、やはり私は 10 年間の計画なので、その計画の途中で料金を構っていくというのはなかなか難しいと考えています。

むしろ逆に 10 年ないし 10 年ちょっとくらいのスパンで、仮に 15 年なら 15 年かもしれませんけれども、やはりスパンで料金を上げていくということを、むしろ習慣としてやっていく必要があると思います。

その間の建設改良投資を中心とする費用というものをきちんと計算して、それを計画的に施行・実施をして、都度住民のみなさんに理解を得ていくということをしないと、なかなか「一定期間がきたので、うちの水道料金も他の団体から比較したらまだまだ安いので、少し上げます」みたいな話をしても、それは感覚的な話ではないかというように思っております。

それから、大変申し訳ございませんが、昨年、先生に消費税の値上げについての審議会でも大変お世話になりましたが、その消

費税の審議会のときにもその質疑があつて、私のほうから「この計画期間内においては、消費税値上げ以外の本格値上げは行わない」ということをお答えしておりますので、ぜひよろしくお願いを申し上げたい。

それから、前段でおっしゃったお話は、PDCA のやり方がよく分からないということでしたか。

○磯部委員

というよりも、変更とするということは、「チェックのところ
でフィードバックしたりして改善していったから、当初のものと
は違う」というような意味合いで全部やっていたらしゃるのかな
と。

●川原上下水道局長

そういう格好でございます。少しその細かい数字のバックデ
ータみたいなものを入れ込むと、これが非常に厚くなって、中身
の量が大きくなるので、それはもう割愛して、結果だけを目標値
を変えたということで挙げております。

その前後の文章も、たくさん書いてあると何のことか分からない
ので、非常に簡単にポイントだけ書いておりますので、大変不
親切でございますが、申し訳ございません。そういうことでござ
います。

○清水委員

すみません、商工議所からまいりました。本日初めて参加させ
ていただいて、今の料金の値上げといえますか、料金体系の提案
なのですが、3 年ぐらい前に商工会議所の女性会で、こちらの主
催で忌部の浄水場を見学に行ったことがあります。

バスで送迎もしていただきまして、それまでは一市民として、
「水道料が高いな」というぐらいに漠然と思っていました。

実際に見学してみますと、職員の方が 24 時間体制で水質管理
をされていたり、それから色々な施設を見せていただきますと、
「お金がかかっているな」というのをみんなで見て、それから水

道のことにみんなが関心を持つようになりました。バスの中でも色々な意見が出て、「理解が全然違ったね」という会議の意見が出ました。

それから、結局「料金がこれぐらいだからこれぐらい」というのは、そういうことを繰り返して、わずかな人数でもバス1台とか出されたら、関心のある市民は料金の不満はなくなると思います。

以上です。今日は大変勉強になりました。ありがとうございます。

●川原上下水道局長

ありがとうございました。引き続きどうかよろしくお願い申し上げます。

○水谷委員長

ほかにございますか。

……………質問・意見なし……………

それでは、特にないようですので、もしこの議題に関してまた何か質問やご意見がございましたら、後ほどで結構でございますので、事務局のほうに追加で質問していただければ、意見を送っていただければと思います。

それでは、次に次回の委員会の日程について、事務局のほうから説明をお願いいたします。

●中西調整官

次回の日程ですが、この委員会を当初の予定では5月ないし6月ぐらいにさせていただきたいと思っておりました。しかし、このコロナウイルスの感染拡大に伴って、水需要の見込みというものを少し見るために、3ヵ月遅らせてこの委員会を開かせていただきましたところ です。

本来、第2回の委員会は11月もしくは12月に進行管理に記載した施策の進行状況等をお示しする予定としておりましたが、この施策について、もちろんこれまでもこれからも鋭意進めてま

いりたいと思っております。

ただ、なかなか11月、12月に当初の予定通りお示しできかねる部分もあろうかと思ひまして、今回につきましては、次の時期を令和3年5月末にさせていただき、令和2年度の施策展開・決算見込値等を踏まえて進行管理を行っていきたいというように考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○水谷委員長

ありがとうございました。ただいま事務局から提案がございましたように、次回の委員会は5月の末に行うということでよろしいでしょうか。

……………異議なし……………

ありがとうございます。それでは、具体的な日程につきましては、後日事務局のほうから調整を行わせていただきたいと思います。

それでは、長時間にわたって活発な意見をいただきまして、ありがとうございました。これをもって第1回の松江市上下水道事業計画経営推進委員会を終了いたします。

マイクを事務局のほうにお返しします。

●中西調整官

ありがとうございました。委員の皆様、長時間、本当にありがとうございました。それでは、どうぞお気を付けてお帰りくださいませ。